

## 平成30年奈良市合計特殊出生率について

- 平成30年の本市における合計特殊出生率は、  
1.28（平成29年の1.23から0.05ポイント増）である。
- 女性人口が70,429人（平成29年72,132人）で前年より1,703人減少しているが、出生数は2,324人（平成29年2,301人、前年比23人増）で、年齢別では30～44歳の年齢階級で増加した。
- 最も出生率が高かったのは30～34歳の年齢階級で、全国、奈良県と同様であった。
- 合計特殊出生率は全国では減少しており、1.42（前年比0.01ポイント減）、奈良県では増加しており、1.37（前年比0.04ポイント増）となっている。
- 全国、奈良県よりも本市の増加が大きかった要因としては、30歳～44歳における出生率の上昇が考えられる。

1 平成30年奈良市合計特殊出生率 1.28（平成29年 1.23）（別紙1ページ）

合計特殊出生率 =

$$\frac{15\sim 19\text{歳の母の出生数}(\ast 1)}{15\sim 19\text{歳の女性の人口}(\ast 2)} \times 5 + \dots + \frac{45\sim 49\text{歳の母の出生数}(\ast 1)}{45\sim 49\text{歳の女性の人口}(\ast 2)} \times 5$$

※1 出生数：厚生労働省「平成30年人口動態調査の母の年齢（5歳階級）別出生数」

※2 女性の人口：平成30年10月1日現在の住民基本台帳15歳から49歳の5歳年齢別女性人口

2 合計特殊出生率の推移（別紙1ページ）

3 出生数および女性人口（15～49歳）の推移（別紙2ページ）

4 母の年齢（5歳階級）別第1子出生数の推移

① 母の年齢（5歳階級）別第1子出生数の推移（別紙3ページ）

② 母の年齢（5歳階級）別第1子出生数の構成比率推移（別紙4ページ）

5 第1子出生平均年齢と女性の平均初婚年齢の推移（別紙5ページ）